

# 令和6年度 第1回 工賃向上研修会

## 事例紹介（農業者①）

株式会社みずは  
代表取締役 柳澤 浩二 様

# 1 事業概要

事業者名・所在地	株式会社みずは 土浦市笠師町3194
栽培品目・面積	水耕みつば、養液栽培トマト (66a) (14.8a)
経営形態	家族4人、雇用22人
経営の特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>・水耕の施設園芸のため、みつばの周年の雇用が可能。</li><li>・養液の施設園芸のため、トマトの11月～翌6月までの継続委託作業が可能。</li></ul>

## 2 農福連携に取り組みはじめたきっかけ

- ▶ 13年前まで外国人実習生2名を受け入れていたが、東日本大震災により帰国した。
- ▶ 外国人材の採用をやめて日本人を募集したが集まらず。旧JA土浦より障害者の活用についての提案を受けた。
- ▶ 土浦市内の「自立支援センター『おひさま』」（移行支援・B型）より、2名から受け入れを開始した。
- ▶ 当初はうまくいかなかったが、支援員が1ヶ月間付きっきりで対応し、徐々に支援員のサポートが外れても問題がない状態となった。
- ▶ 現在は3名を同社の社員として一般雇用している。また、トマトの袋詰め作業について、「おひさま」の施設外就労として作業委託を行っている。

# 3 作業内容① (トマト)

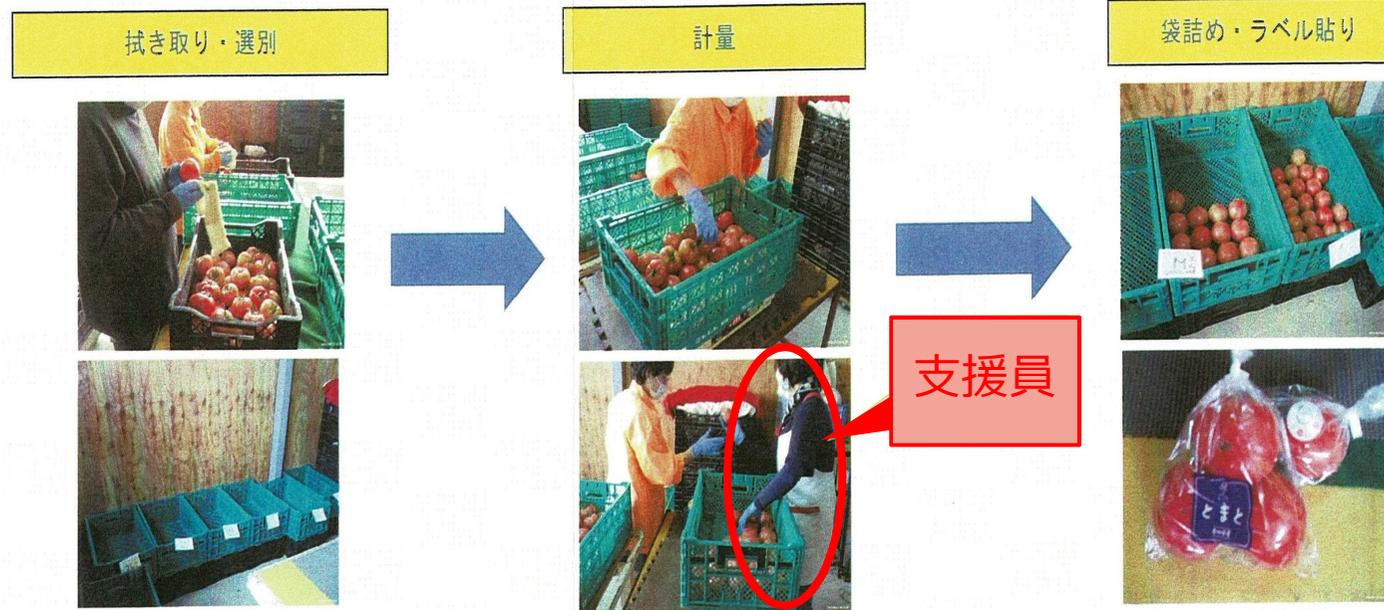
## ▶ 年間作業スケジュール

(福祉事業所に依頼している作業)

- ・ トマトの袋詰め
- ・ トマトの箱詰め

## ▶ 作業の内容・様子

①拭き取り・選別 → ②軽量 → ③袋詰め・ラベル貼り



### 3 作業内容②（トマト）

▶ 気を付けていること

- ・福祉事業所の利用者が施設内と同じ環境で作業できるように、作業は支援員と利用者に任せています。

▶ 工夫していること

- ・作業工程の確認と考えない計量



## 4 作業を依頼してみてもの感想

- ▶ 伝えたいことは見えるように伝える。教えたいことは、支援員を通す。
- ▶ 覚えてしまえば、作業はできるようになる。
- ▶ まかせることで経営者側の作業時間が増える。
- ▶ 福祉事業所の利用者は、仕事をする事ができる。



台車の持ち手に色付け

種 6/26	7月8日(金)
収穫	120, 90, D-3
定植	120, 188枚
定植苗	76枚
移植	120, 90, 47, 47, 47
移植	33, 32, 24, 24, 25, 25, 25
	D

ホワイトボードに作業量を記載

## 5 経営の効果

- ▶ 人手不足を補うことができ、福祉事業所に作業を委託することで経営者は栽培に集中できる。
- ▶ 障害者に作業を依頼するため、障害者が作業をしやすいような、個体差が少なく、安定した品質を目指した栽培を心掛けるようになる。
- ▶ 上記の理由から、安定した商品の出荷ができる。

## 6 今後の取り組み

- ▶ 福祉事業所の施設外就労の場として、福祉事業所に作業委託を行う対象品目の拡大や受け入れ人数の増加を目指す。
- ▶ 作業環境を良くして、できる作業を増やす。
- ▶ 働きたいと思う障害者の支援をすることで地域貢献につなげる。

## 7 参加者へのメッセージ

### ▶ 農業者や生産者のみなさんへ

- ・ 誰にでもできる作業を考えて提供することを意識していただきたいです。
- ・ 「これだけやってもらえれば」という作業を手伝ってもらおうという気持ちで作業を頼む（高望みをしない）ことも重要です。
- ・ 工夫することは障害者から学びましょう。

### ▶ 福祉事業所のみなさんへ

- ・ 農家は「障害者と接したことが無い・障害特性の知識がない」ので、どのように対応していいのかわかりません。
- ・ 支援員と農業者のコミュニケーションは不可欠です。  
（支援員は、農業者と障害者との「橋渡し役」）
- ・ 常にどうすればこの作業ができるかを農業者と一緒に考えてください。



ご清聴ありがとうございました